

研修会名	テクニカルスクール 「会議の場のデザイン」
講師	北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット (CoSTEP) 特任准教授 三上直之 様
日時・場所	平成 19 年 10 月 3 日 18:00～ (KKR ホテル札幌)
研修概要	

### ■ テクニカルスクール

技術者として様々な形式の会議を運営する機会があるかと思います。しかし、会議の参加者は専門知識の理解レベルや立場が異なる場合も多く、参加者間で議題に関わる情報の共通理解を図ることさえ難しい場合がないでしょうか。10月3日に開催した夏季テクニカルスクールでは、よりよい会議の場を構築する方法を学ぶことを目的とし、北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット(通称CoSTEP)の三上直之特任准教授を講師としてお招きし、「会議の場のデザイン」をテーマとした演習を行いました。参加者は22名でした。

三上先生の所属されているCoSTEPは、科学技術を一般の人にわかりやすく伝える役割を果たす人材の育成組織です。子供達の理科離れや高度に専門化した科学技術をめぐる社会的な諸課題を解決するために、科学技術の専門家と市民との間を橋渡しする人材を育成することを目的とし、文部科学省の科学技術振興調整費によって平成17年より北海道大学に開設されました。現在授業の一環として月1回サイエンスカフェ札幌を駅前の書店で開催するなど多方面で活動されています。

今回のテクニカルスクールは、CoSTEPで実際に行われている授業をベースとした演習として企画し、「会議を活性化するためには、どのようなプロセスを仕掛けて行くべきか」をテーマとして、技術者が日頃関わる「会議」を題材に参加者間でブレインストーミングを行いました。私たちが抱える会議の問題点についてグループで話し合い、最終的に良い会議をつくるための解決策を提案することがこの演習の到達点となります。

今回の研修会では、三上先生の自己紹介と演習内容の説明の後、早速5・6人のグループに分かれて話し合いを開始しました。まず自分の考える会議の問題点を紙に書き、自己紹介とともにグループ内のメンバーに説明していきます。それらを付箋に書き込みながら会議の抱える問題点についての情報を共有し、整理しました。次に問題点に対する解決策について話し合い、用意した模造紙に付箋紙を貼り、説明を書き込みながらファシリテーショングラフィックとしてまとめていきました。最後に、各グループで話し合った結果を順に発表し、参加者全員で情報の共有を行うとともに、三上先生より会議の場をデザインする上でのポイントの説明と、演習の総括を頂きました。

このような作業を通して、あらゆる会議に共通の4つのステップを意識するとともに、話し合いを行うグループの人数の設定などによって、準備の段階から会議をデザインする発想が重要であることを学びました。また、質問カードを使い、文章で質問を受け付けることで、質疑応答をうまくコントロールするテクニックなど、実際の会議の運営に役立つスキルも参考となりました。参加型の演習ということで、全体的に議論が盛り上がり、時間も不足してしまいましたが、「会議を題材に会議をする」という演習は、貴重な体験になったかと思います。

今後は、今回の研修内容を発展させて、合意形成や会議の場での技術者のコミュニケーションのあり方をテーマとした演習型のテクニカルスクールをシリーズ化して企画していく予定です。



テクニカルスクールの様子